

## マネージメント情報

※世界の受精卵事情について 【 IETS2021 版の資料より】

3年前にも同じ内容の報告をしましたが  
IETS（世界受精卵研究会）2021年の最新版の報告がありましたので、再度紹介します。

右のグラフは2002年～2021年のIVD（体内受精卵）とOPU-IVP（体外受精卵）の生産個数の変化を表しています。世界全体では体内受精卵が386,374個、体外受精卵が1,499,136個の合計1,885,510個の移植可能な受精卵が生産されたことになります。一番の原因是新型コロナウイルスのパンデミックが世界的には影響しなくなつた事が考えられます。

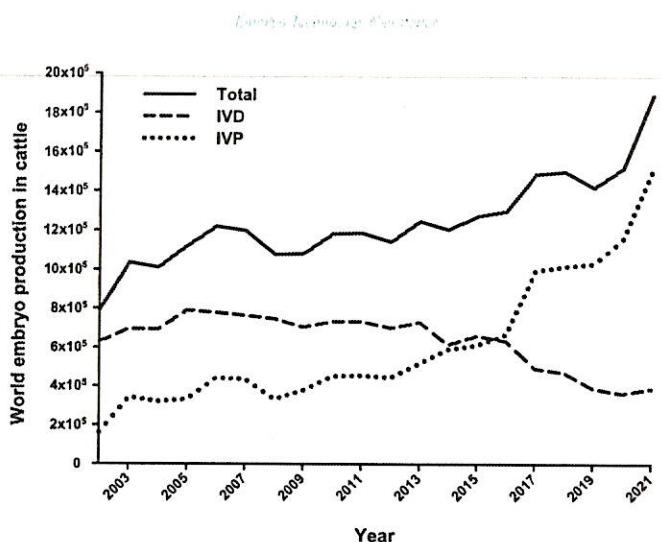


Figure 2. Number of bovine embryos ( $\text{in vivo}$ -derived [IVD],  $\text{in vitro}$ -produced [IVP], and total) recorded in the period 2002-2021.

下のグラフは各エリア事の生産数のグラフです。

体外受精卵については前年比で北米が+32.1%、南米が+35.3%で両地域が依然として世界を牽引しています。体内受精卵については北米が若干の増加+6.8%となってますが世界的な傾向には変化はありません。

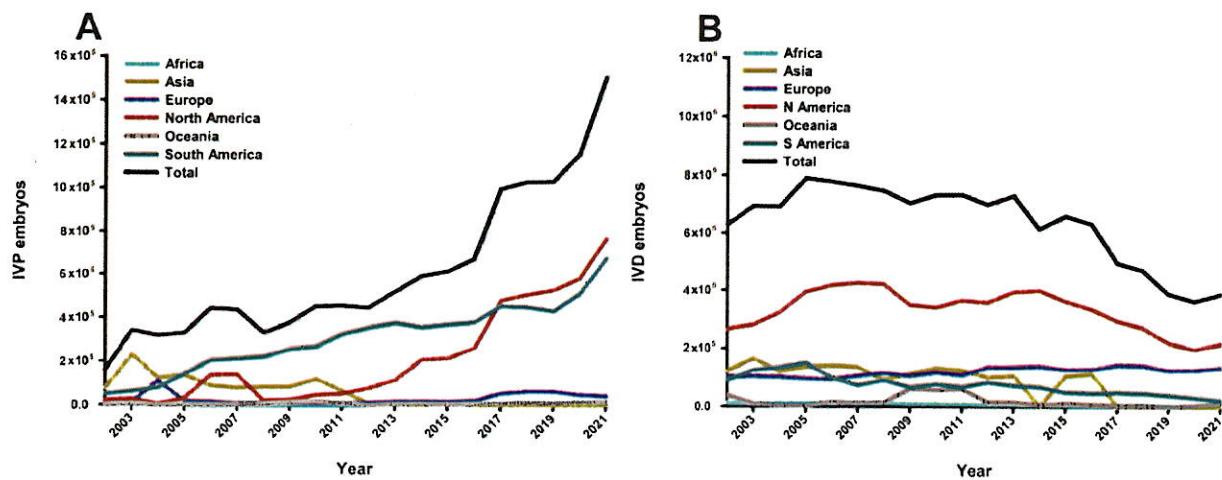


Figure 3. Number of embryos produced or collected in cattle in the period of 2002-2021, by continent. (A)  $\text{In vitro}$ -produced [IVP] embryos; (B)  $\text{In vivo}$ -derived [IVD] embryos.

December 2022

残念ながら日本（アジア）の成績は報告されていなく、体外受精卵の数字は殆ど南北アメリカの数字となっています。

体内受精卵の数字も南北アメリカが主体でヨーロッパの数字が若干ある程度で世界の受精卵技術は南北アメリカが牽引していることが良く理解できるグラフだと思います。

以下のグラフは移植頭数を表しています。Aが頭数とBが割合を示しています。  
このグラフも体外受精卵の移植が生産個数同様に増えていて、体内受精卵の移植が減少していることがわかります。

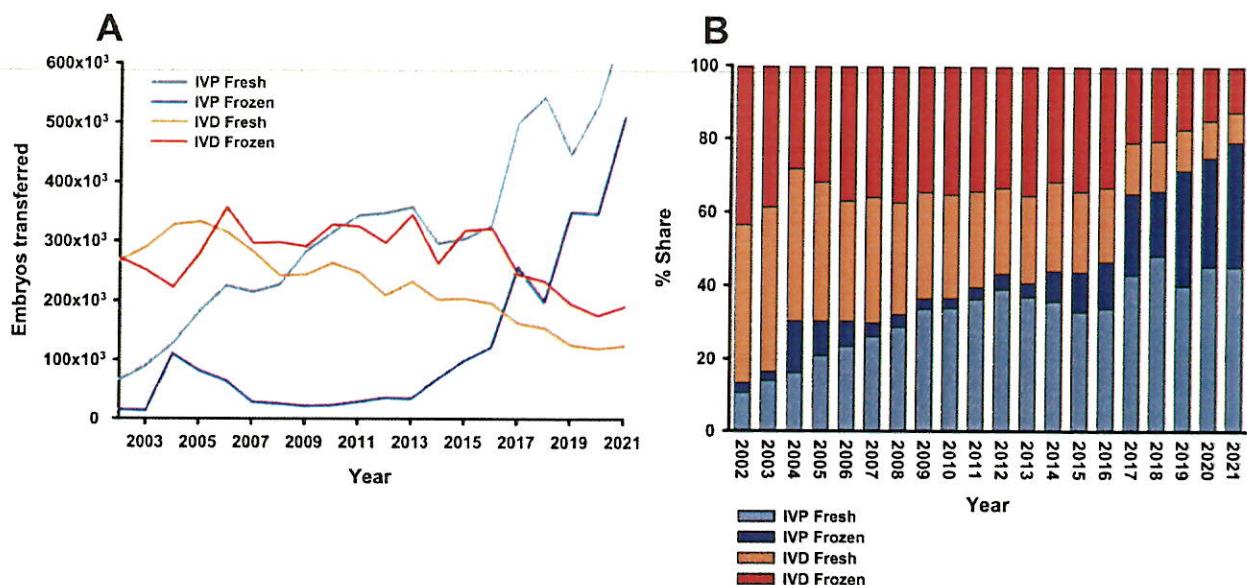


Figure 4. Embryo transfers in cattle in the period of 2002-2021, according to the technique used (*in vivo*-derived [IVD] or *in vitro*-produced [IVP]) and type of embryo (fresh or frozen-thawed). (A) Number of embryos transferred; (B) Percent share of the total embryo transfers per year.

日本国内ではまだまだ受精卵は体内受精卵の方が体外受精卵より品質がすぐれていると考えている生産者や移植技術者が多いのが実態ですが、世界の流れは全く逆の方向に向かっています。私たちの体外受精卵の培養技術は北米由来の技術ですので、一般的に認識されている体外受精卵の問題点は解決済みですので品質的には体内受精卵と何ら変わりませんので安心して使っていただければと考えています。

・昨年も見学に来られた徳島県の原田牧場の原田社長（御年85才）と木村農場長のお二人が先週再度OPU牛舎の見学と中標津の工藤牧場の視察のため来根されました。

今回も往復40時間以上のフェリーの船旅+陸路の移動で船中泊入れて3泊4日の日程でした。当時に自宅に戻られたのは深夜の2時過ぎと連絡がありました。前期高齢者の私ですが、原田社長とは約20才若いので、原田社長を見習ってまだまだ頑張らなければならぬと思つた次第です。（\_）

・11/22に新型コロナ陽性となってしまい1週間の自宅待機をしていました。顧客のみな様社員のみなさん他関係者のみなさんにはたいへんご心配とご迷惑をかけてしまいました。おかげさまでたいした症状も後遺症もなく仕事復帰することができています。アメリカの知人の話ではアメリカではコロナに感染していても症状が軽ければ或はせずに普通の風邪と同じ対応で出勤しているのが実態だそうです。遂にはば2年間外出せず、マスクをした生活が続いたことが原因で人の免疫が落ちていてコロナに関係なく通常の生活をしていれば問題にならない感染症にかかる人が増えているそうです。日本の私たちも或をつけなければならぬと思います。

・早いもので今年も残すところ残2週間と少しほなってしまいました。毎年思うことですがあつという年の1年でした。来年こそはと毎年思い……の繰り返しでもあります。

厳しい情勢ではありますが、来年も（は）良い年でありますように!!!!

阿部

## ひと

規格外の22歳がプロ4年目で初の日本一をつかんだ。「自分たちの野球ができれば、すごく楽しみにしている」と意気込んだ大舞台で躍動した。プロ野球を初めて観戦した2001年3月30日、東京ドームでの巨人—阪神の開幕戦で、巨人の高橋由伸選手（現巨人監督）の放った3点本塁打は小学生の目に焼き付いた。社会人でプレーした父



プロ野球日本ハムの10年ぶりの日本一に貢献した  
おおたに しょうへい  
**大谷 翔平さん**

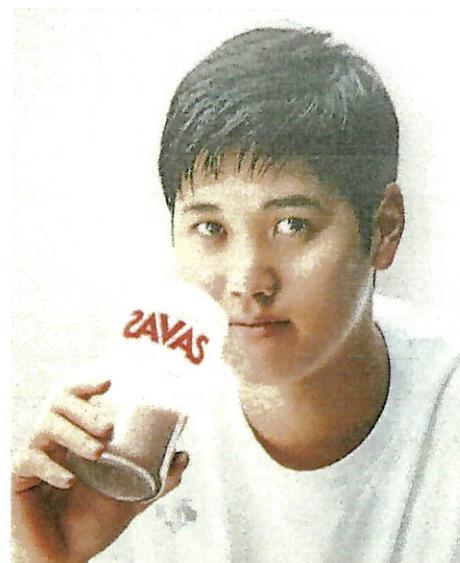
の影響もあり、翌年から野球を始めた。小さな頃から牛乳をたくさん飲んだことが1930年代の恵まれた体の根幹となっている。幼少時に好きだったのは高橋選手とソフトバンクの松坂大輔投手で、「イメージが湧きやすい。ないものからよりも、あるものからつくつてい

つた方がいい」と動きを参考にした。現在も挑戦する投打の「二万流」の礎となつた。「二万流」に励むからこそ時間は無駄にしない。たとえ

尊敬される「僕はまだ大した活躍はできていない。すごいパフォーマンスを長年出せる選手になりたい」と謙虚に語る。

野球漬けの毎日でも他競技への関心が高い。2月の米国キャンプ中にはプロバスケットボールのNBAを楽しんだ。小学2年から5年までは水泳にも取り組んだ。リオデジャネイロ五輪の競泳男子400m個人メドレーで同世代の萩野公介選手が金メダルを獲得した時にはすぐに連絡を入れて祝福した。岩手県出身。

左は2016/10/30 西日本新聞の記事です。私、2011年から壱岐においてましたので読めたのかもしれません、たぶん系列なので北海道新聞でもあったとは思います。とにかく、大谷選手が牛乳の大量消費者だったと知り、うれしくてスクラップしておきました。牛乳への思いがあつて「ホエープロティン」の宣伝にも出てくれたのかもしれませんね～



今後はもっと直積的に援護してもらうことはできないものでしょうか・・・

他にも、今回のサッカー代表選手の中にも、いやいや他のスポーツでも探してみてはいかがでしょうか～

「私は牛乳育ちです」そんな人気者

いらっしゃるのではないでしょうか・・・牛乳が消費され、日本が強くなる。そして世界のスポーツがレベルアップする・・・飢餓も減る・・・

—なつてているのは明らかだ。—うな事態をロシアが追認す